



日本医療マネジメント学会学術総会@仙台 患者さんと職員の満足に知恵を出し合う

2017年7月7日(金)・8日(土)の2日間、第19回日本医療マネジメント学会学術総会(会場：仙台国際センター)が開催され、全国から医師・看護師・薬剤師・医療スタッフ・事務員・管理者など、



病院経営に関わる約3,800名が杜の都仙台に集結した。本総会では「地域を守るあたたかな医療」患者・職員の満足をめざして「をテーマに、クリティカルパス・医療安全・地域連携・職員教育を中心に様々な発表が繰り広げられた。また、仙台ならではのプログラムとして、伊達家第18代当主 伊達泰宗氏による招待講演「独眼竜政宗最後の決戦」、仙台市在住の人気作家 伊集院静氏による市民公開講座「旅と文学」などが開催され注目を集めた。

会場となった仙台国際センターは、仙台駅から地下鉄で5分と好



仙台国際センター

ランチョンセミナー速報

総会2日目、2017年7月8日(土)には、株式会社リブドゥコーポレーション共催のランチョンセミナー「手術キット導入がもたらしたもの」手術室ビッグデータに立ち向かえ!」が開催された。講演の座長に坪内博仁先生(鹿児島市立病院 院長)、演者に田中聖人先生(日本赤十字社京都第二赤十字病院 医療情報室長兼消化器科副部長)をお迎えし、手



ハリヤード・ヘルスケア・インクと メディカル不織布分野で業務提携

2016年11月、株式会社リブドゥコーポレーションとハリヤード・ヘルスケア・インク(以下、ハリヤード社と記載)は、メディカル不織布製品分野の業務提携を正式にスタートさせた。ハリヤード社は、米



ド社は、米国ジョージア州アルファレッタに本社を置き、世界100カ国以上で事業を展開するグローバル企業である。

優れたバリア性で幅広い手術に対応



ウルトラサージカルガウンL3

2017年4月には提携第一弾としてハリヤード社製サージカルガウン(製品名:ウルトラサージカルガウンL3)を新発売。ガウンテクニク時の不潔リスクを低減するリブドゥオリジナル介助者カードが好評を得ている。両社がお互いの強みを活かすことでシナジー効果を発揮し、手術室のニーズにきめ細やかに対応した製品を生み出したい。(福井)

アクセスながら、青葉山の緑豊かな大自然を感じられる場所にあり、集中して討議するのに絶好の環境が整っている。両日とも天候に恵まれ、清々しい初夏の陽気のもと、他施設の発表を真剣に聞き入る姿が多く見られた。様々な議論が交わされ大いに意見交換、情報共有ができる機会となったのではないだろうか。(庄畑)



第31回日本手術看護学会年次大会 ランチョンセミナーをサポート

ハリヤード社は、第31回日本手術看護学会年次大会(2017年11月3日にコングレコンベンションセンター(グランフロント大阪)にて開催予定)のランチョンセミナーを共催する。株式会社リブドゥコーポレーションでは、今回の業務提携を受け、ハリヤード社のセミナー運営を強力にサポートする。今回のセミナーでは、座長を鈴木正子先生(公益社団法人

愛知県看護協会 会長)が務められ、演者として早川哲史先生(医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 副院長)が登場される。早川先生は、手術室を中心とした医療安全をテーマに講演される予定で、チーム医療にも言及される。医師の立場から、手術室看護師にどのようなメッセージが発信されるのか期待が高まる。(福井)



たいと願う多くの方の心に響く田中先生の力強いメッセージに、会場からは大きな拍手があがった。(庄畑)

術準備品のデータベータ化、標準化キットの導入、消耗品の使用状況分析といったデータ活用までの取組み手法や、プロジェクトを成功させる要素について具体的に紹介いただいた。手術室のデータ運用に課題を抱える約200名の来場者からは、田中先生の熱意とユーモア溢れる講演に、「改善の参考にしたい」「大変分かりやすかった」「看護師の立場をよく理解していただき、とてもうれしい」などといった声がかげられた。坪内先生には、田中先生のプロジェクトの進め方は、目からうろこが落ちるようだったとの講評をいただいた。

チーム医療の要と言われる手術部門だからこそ、様々な職種が協力し合う体制をいかに築き上げられるかが、改善活動の推進に大きく影響することは周知の通りである。しかし、その体制づくりこそがなかなか難しい。課題を解決したいと願う多くの方の心に響く田中先生の力強いメッセージに、会場からは大きな拍手があがった。(庄畑)

病院でも関心高まるISO

先進医療技術の発展や患者ニーズの多様化により、医療現場でも品質マネジメントに対する意識が高まっており、第三者機関より管理体制に関する審査を受け、その評価を証明する医療機関が増加している。評価対象規格の代表例として、世界共通規格を構成している国際標準化機構（以下、ISOと記載）がある。身近な例として、非常口のマーク（ISO7010）やネジ（ISO6033）など製品そのものを対象にした「モノ規格」があるが、一方で、製品ではなく組織の品質活動や環境活動を管理するための仕組みについても規格が制定されており、「マネジメントシステム規格」と呼ばれ

る。最も有名な規格は「品質マネジメント」の世界共通規格を示すISO9001で、企業や病院など組織運用に必要な基準が設定されている。有効期間は3年で更新が必要となる。継続的な保持点検が必要になる。医療機関であれば安全な品質管理や患者満足度を向上させる取り組み体制について客観的に評価を受けることができ、ホームページなどでPRするケースが多い。ところで、このISO9001を基



盤に、医療機器や体外診断用医薬品固有の要求事項が追加された規格ISO13485はご存じだろうか。医療機器における品質管理は、人の健康・生命に重大な影響を及ぼすものであるため、ISO13485認証取得では、安全性と安定した品質確保についてより細かな追加要求事項で評価される。他にも、環境リスクの低減および環境への貢献を旨とする環境マネジメントシステム規格（ISO14001）や、食品安全規格（ISO22000）、情報セキュリティ規格（ISO27001）などが社会的な仕組みとして定着し、広がりを見せている。PDCAを回すことで継続的な改善を実施し、定期的な審査を受けることは、組織の緊張感を高める効果も期待できるようだ。（畑山）

「簡単まとめ髪」をご紹介します

キャップ着用が必須の手術室看護師にとって、髪の毛の乱れは悩みの一つになっているのではないだろうか。手術の合間の限られた時間でも手早く仕上がる「まとめ髪」の方法について、ショートヘアとロングヘアそれぞれにご紹介。簡単で見た目も可愛いヘアアレンジに挑戦してみたいか？

ショート

ロング



束ねる



少し低めに束ねる



根元に指を入れ、毛先を上から下へ入れ込む



余った毛先を根元に巻く



中段と下段も同様にくるりんぱ



ゴムをつまみ、隙間に毛先を入れる



襟足をピンで留め完成



完成

今年はお嬢がアツい!

国体に向け 県民一体でおもてなし



みきゃん 許諾番号 2907034

を筆頭に、国体を盛り上げるための6つの運動（ふるまい運動・

「新居浜太鼓祭り」

アツい! 祭りもアツい!

新居浜太鼓祭りは、豊年の秋を感謝し、例年10月15日から18日に開催される。阿波踊り・よさこい



祭りに並ぶ四国三大祭りの一つに数えられ、期間中約20万人もの観客でにぎわう。金糸で刺繍された豪華絢爛な幕を付けた太鼓台は、重さ約3t、高さ約5・5m、長さ約12mという大型の山車的一种で、約150人の「かき夫」と呼ばれる男衆が担ぎ、その姿は勇壮華麗で「男祭り」として全国的に知られている。

最大の見所である「かきへらへ」は、複数の太鼓台が集まり、担ぎ上げる様子を競い合うもの。期間中は市内各会場にてかきくらべが行われており、秋空に舞う太鼓台の雄姿が見られる。



ダークみきゃん 許諾番号 2907034

花いっぱい運動・クリーン運動・えがおダンス・えがお体操・みきゃんリレー）が実施されている。なかでも、ふるまい運動では、同県が道路文化により昔から大切に受け継がれている「お接待」の心で地域の郷土料理やご当地グルメをふるまい、愛媛らしさ・わが街らしさを伝えていく。また、花いっぱい運動では、県外から訪れた人をおもてなしするため、競技会場・道路・駅などを花いっぱいにする企画が実施されている。国体開幕に向け一層の盛り上がり注目だ。（畑山）

Livedo Topics

2017年8月13日、当社は今年も阿波踊り（徳島市）に参加される高齢者および障がい者への支援団体「ねたきりになら運」に協賛します。紙おむつと車いすの提供および当社社員によるボランティア活動は15年に渡り継続しており、本活動を通じて、これからも生きる力を応援します。

2017年4月3日、介護のくらしにプラスをお届けする当社運営ウェブサイト「Live+Do（ライブ・プラス・ドゥ）」では、家事の経験がない方でも簡単に介護食が作れる「だれでも介護食レシピ」を公開しました。フェイスブックおよびインスタグラムでは動画より詳しくご紹介しています。是非ご覧ください。

【編集後記】

日本の各地で、長雨や集中豪雨による甚大な災害が発生しています。被害を受けた地域の皆さま、関係者の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

リーダーの発達やビッグデータの統計解析、そして様々な情報サイトの浸透のおかげで、私たちは最新の気象予測を即座に知ることができるようになりました。私も、仕事帰りに毎日スマートフォンで雨雲レーダーを確認するのが日課となっています。その予測を見て「どう行動するか」という一人ひとりの判断が重要になってくるのでしようが、いずれの災害も「未曾有」と伝えられる昨今、考えられる最大のリスクを意識して行動する習慣をつけるくらいで、むしろ丁度良いのかもしれません。